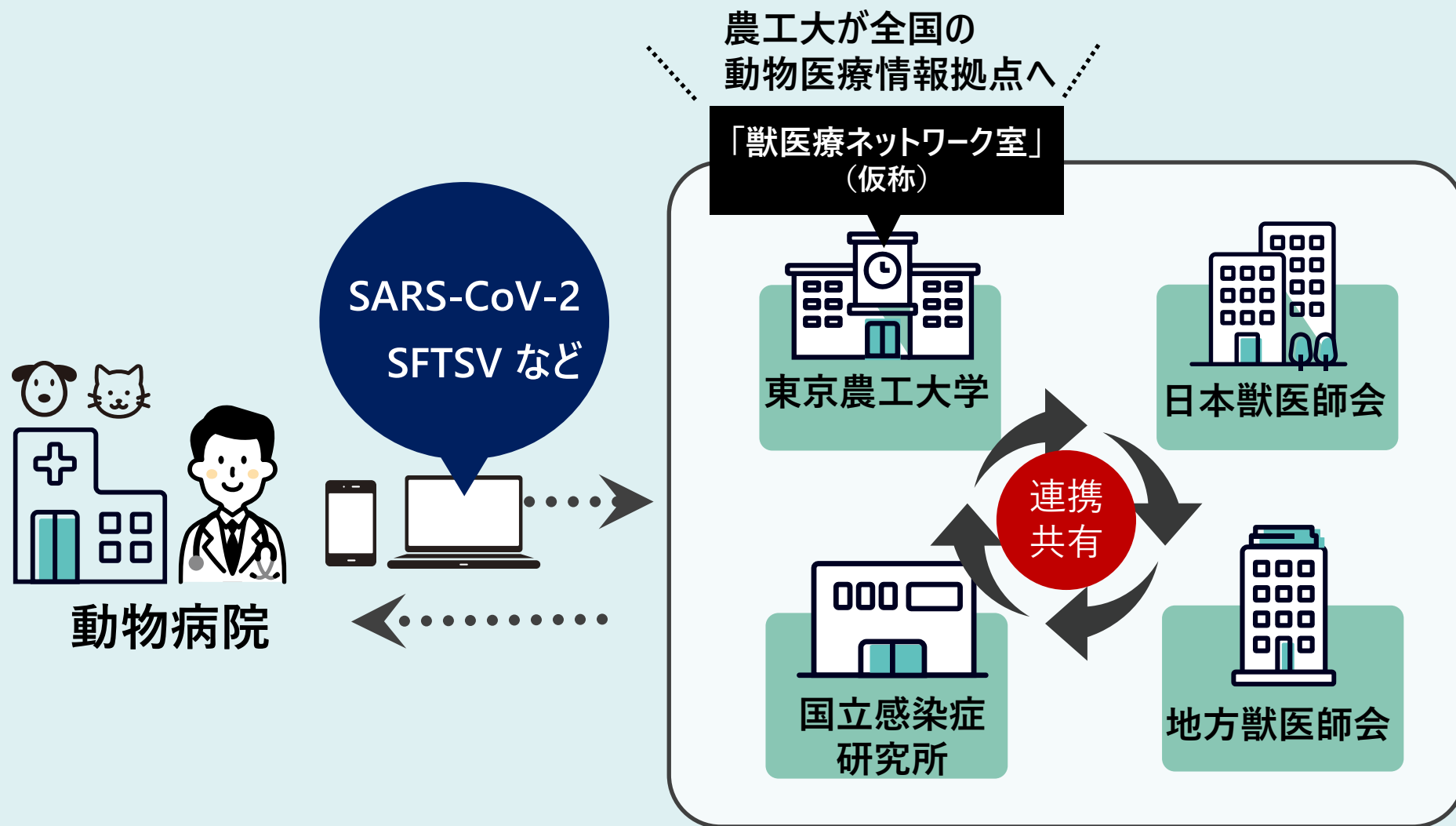

伴侶動物の動物病院ネットワーク 構築のお願い

AMED研究班「愛玩動物由来人獣共通感染症に対する検査及び情報共有体制の構築」

感染症を中心に獣医療ネットワークを構築 (AMED前田班)

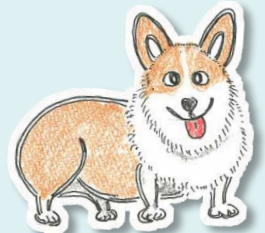


新型コロナは人獣共通感染症である

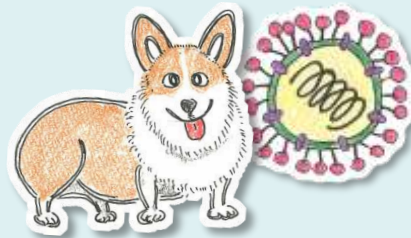
はじまり



現在の状況

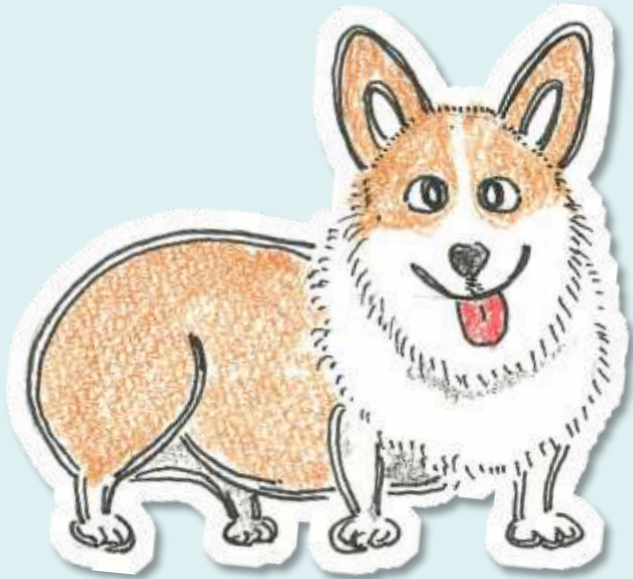


すでに



新型コロナは人獣共通感染症である

飼い犬



- 感染しにくい
- ウイルスの付着が多い
- 家庭内感染あり
- おそらく症状なし
- 感染期間は1週間以内

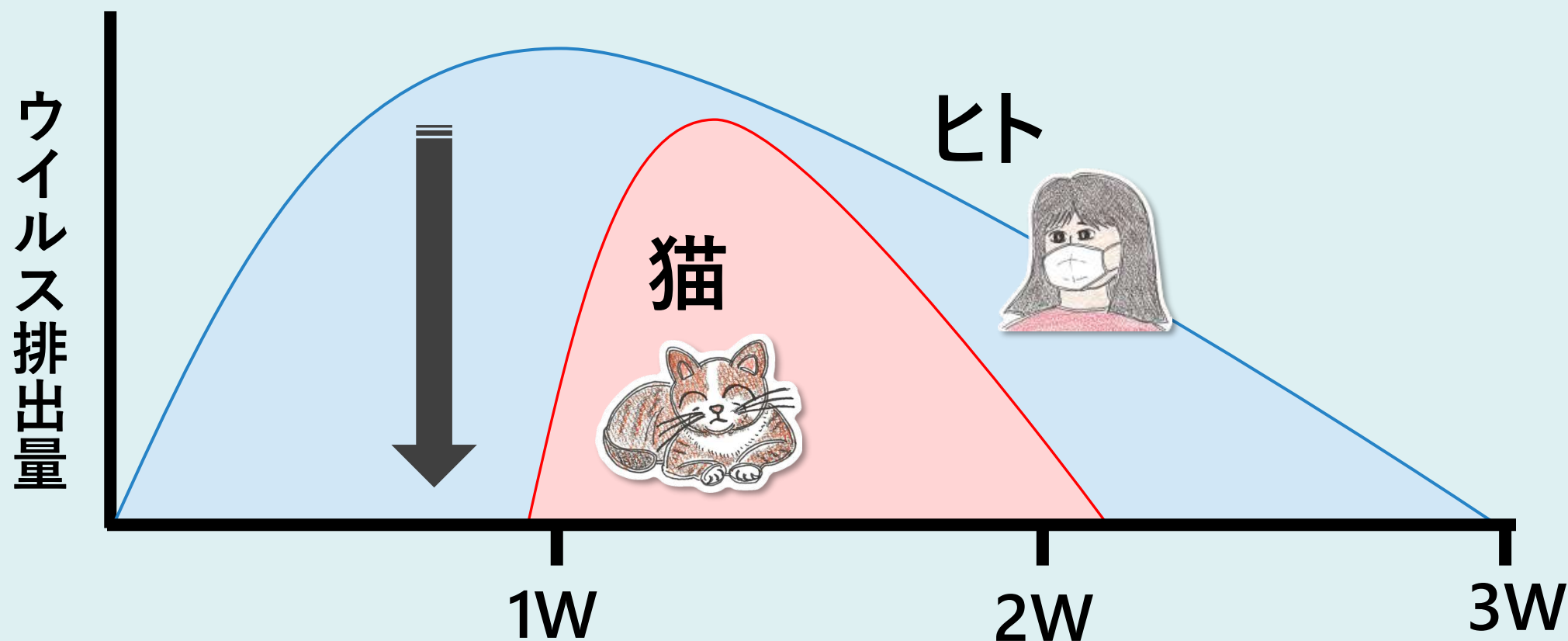
新型コロナは人獣共通感染症である

飼い猫



- 感染する
- 猫 ⇒ 猫感染がある
- 家庭内感染あり
- 軽い咳症状
- 感染期間は 1 週間以内

家庭内で飼い主から猫への感染



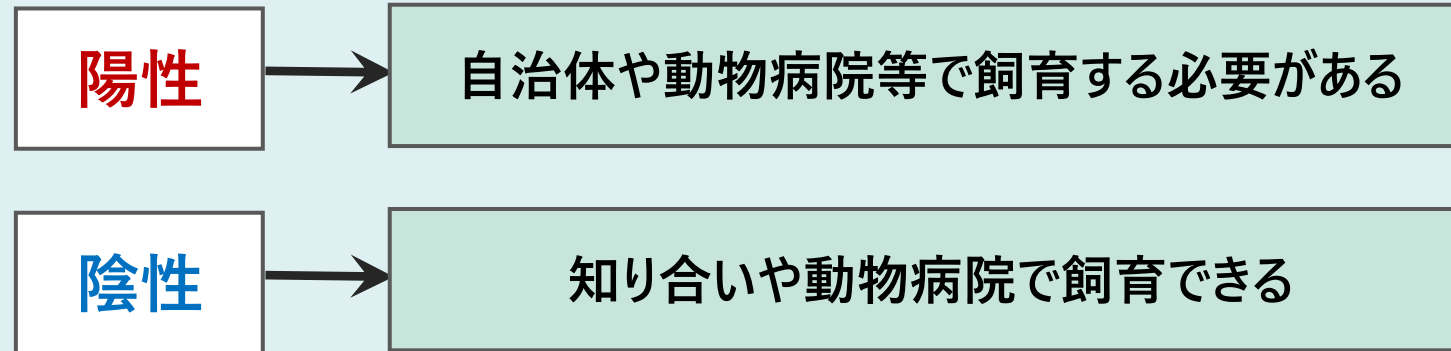
新型コロナウイルスと伴侶動物の概要

- 新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は飼い主から犬猫へ感染する
- 日本においては犬で0.2%、猫で0.05%が感染している（ランダムサンプリング）
- 陽性の飼い主から犬猫への感染は最大40%起こっている可能性がある
- SARS-CoV-2の犬や猫から飼い主への感染は報告されていない
- 診療時にはPPEが必要であり、入院時には隔離が必要である

伴侶動物におけるSARS-CoV-2検査の必要性

今回の検査対象

飼い主が入院する時に残された犬猫を検査して引き取り者を探す必要がある



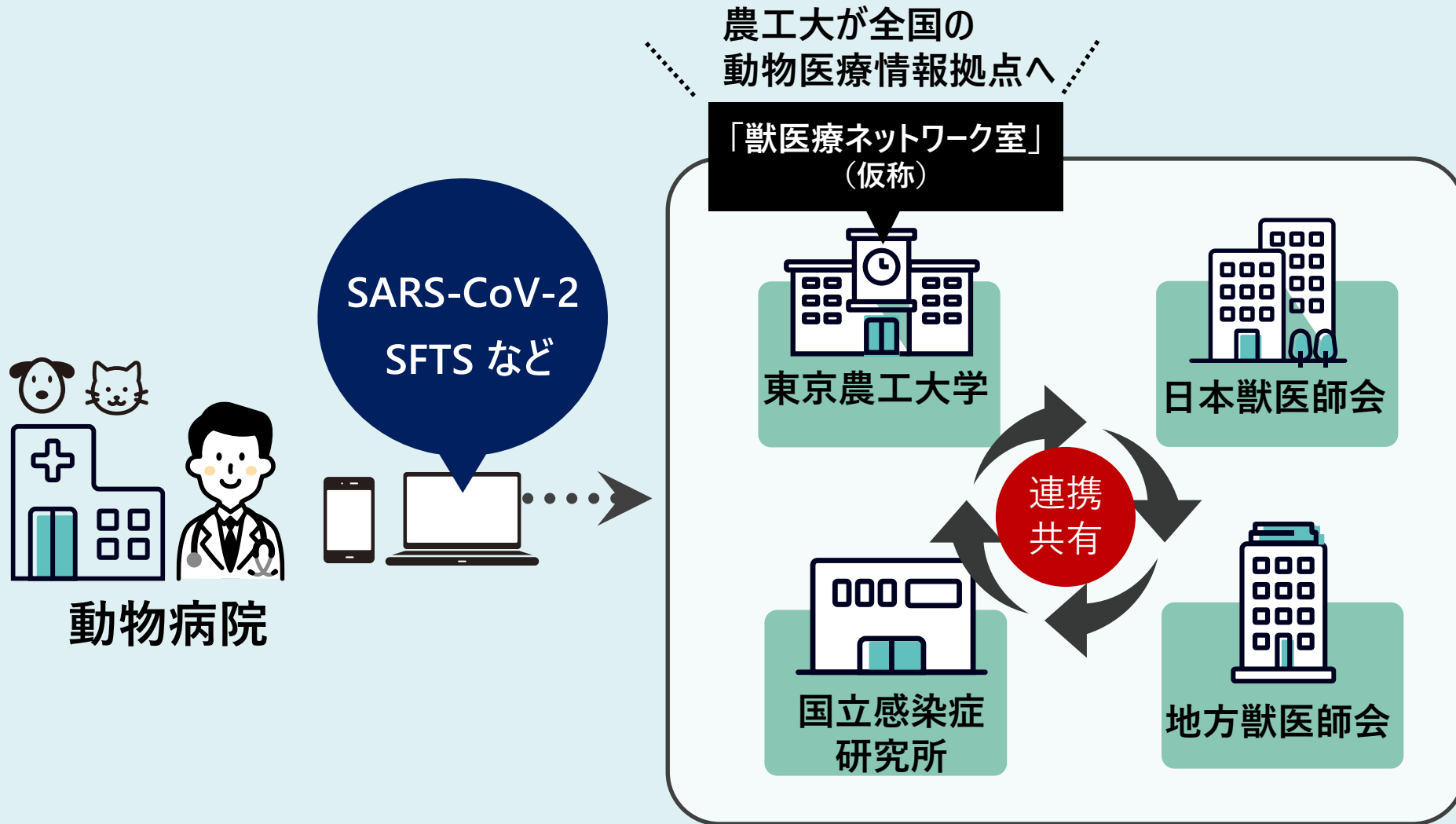
今後考慮に入れておくべき事項

- ・SARS-CoV-2陽性の犬猫が動物病院へ来院している可能性があること
- ・変異株によっては犬猫が重症化して診療の対象になる可能性があること

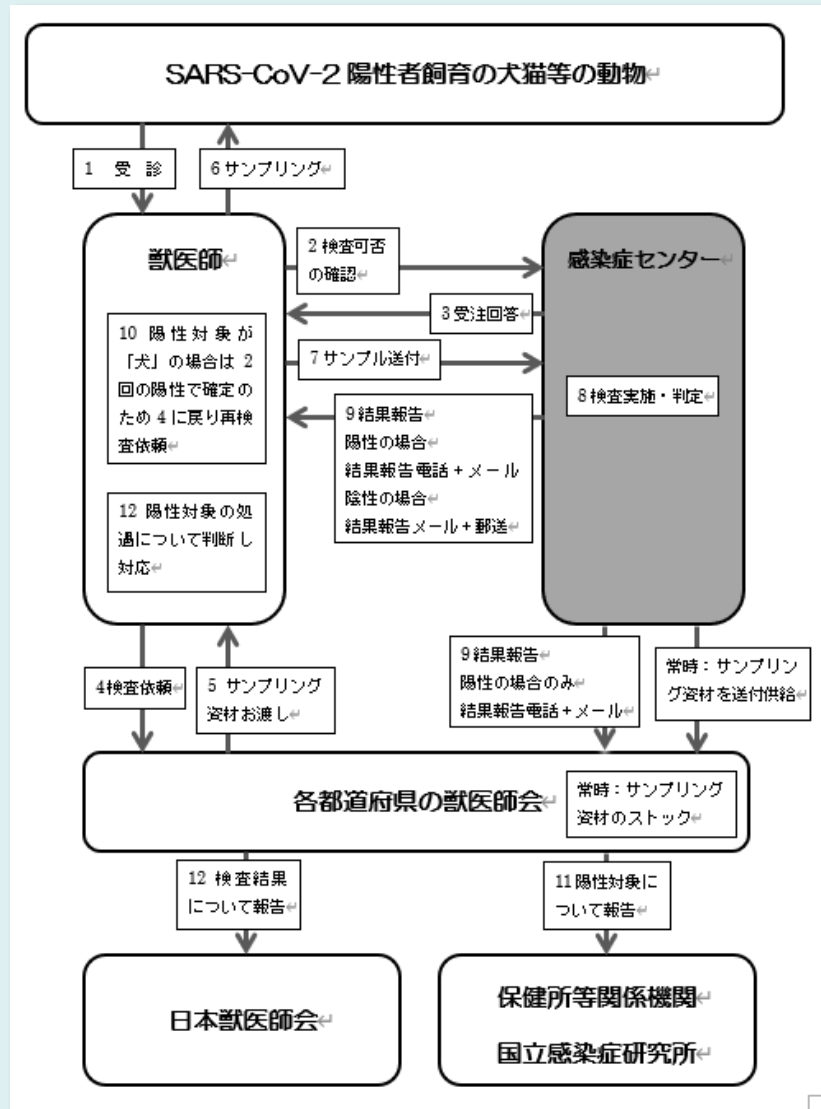
伴侶動物におけるSARS-CoV-2検査の実施概要

- 飼い主が入院するときに限り伴侶動物のSARS-CoV-2のPCR検査を実施する
- 飼い主が来院後に感染していることが判明した場合にも検査を実施することがある
- 獣医師からのSARS-CoV-2検査依頼はPC上でDASシステムをする
- DASシステムは、動物病院・地方獣医師会・日本獣医師会・国立感染症研究所・東京農工大学を結ぶ獣医機関のネットワークで、犬猫のSARS-CoV-2検査、SFTSV（重症熱性血小板症候群ウイルス）検査、死亡野生動物の報告を行う
- 東京農工大学は農学部感染症未来疫学研究センター内に「獣医療ネットワーク室」を置き、大学としてこの事業に取り組む

感染症を中心に獣医機関のネットワークを構築 (AMED前田班)



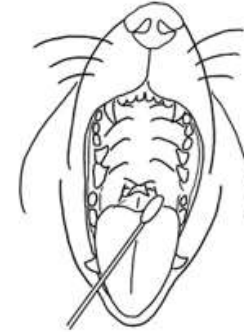
犬猫SARS-CoV-2 PCR検査スキーム



◎検体採取のしかた◎

① 綿棒をご用意ください

② 綿棒の綿体で鼻腔もしくは咽頭を十分に拭きます。もしくは唾液



③ チューブのなかの不活化液がこぼれないよう注意してキャップを外し、綿棒の綿体を不活化液に十分に浸します。



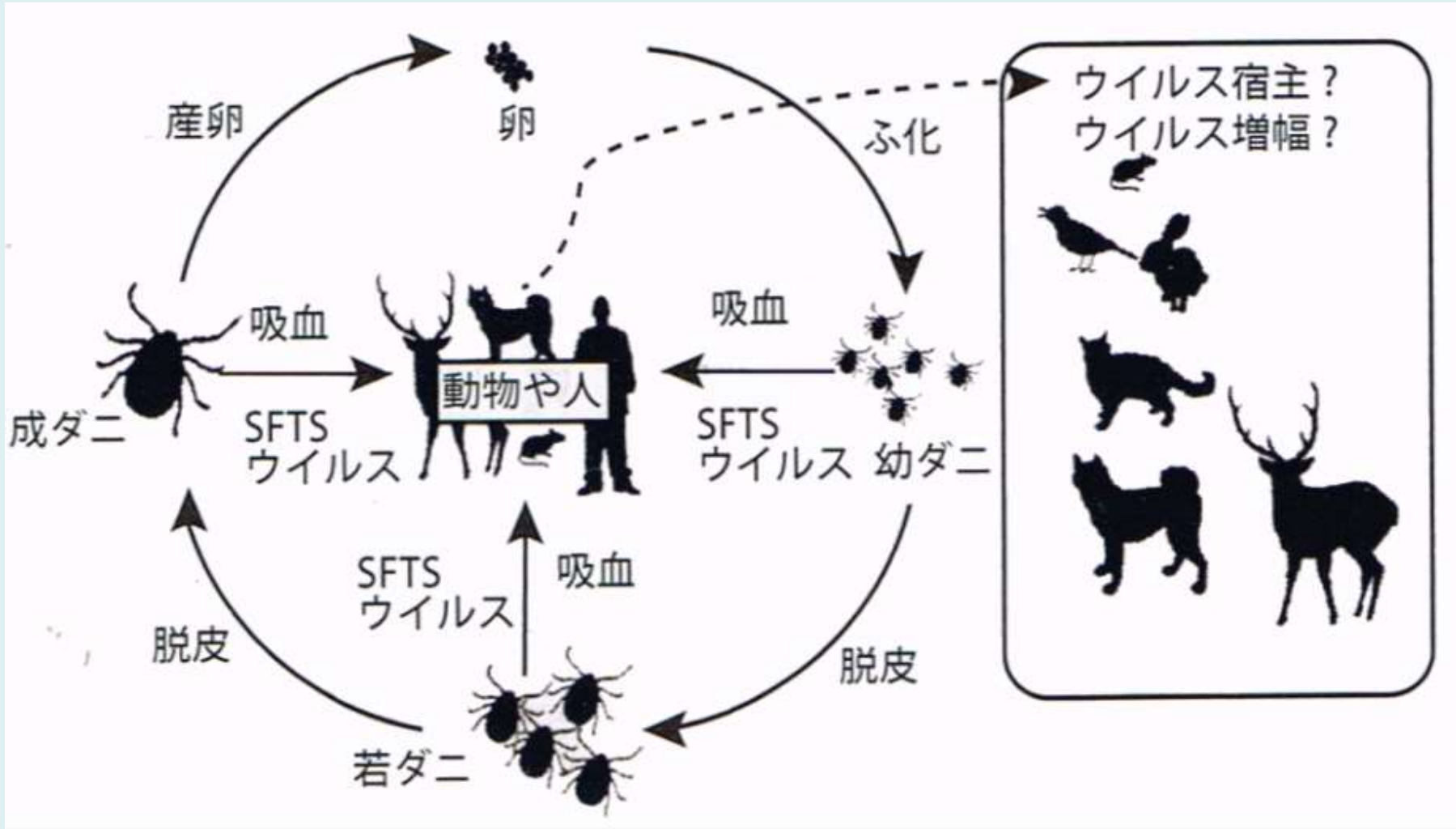
④ チューブのキャップをしっかりと締め、検査依頼書と一緒に配布時のビニール袋に封入し送付します。



<送付先>

〒183-0054
 東京都府中市幸町3-5-8
 東京農工大学
 農学部附属感染症未来疫学研究センター
 COVID-19 検査チーム宛

SFTSはダニを媒介してヒトや犬や猫に病気を起こす



SFTSによるヒトの致死率は新型コロナよりもはるかに高い

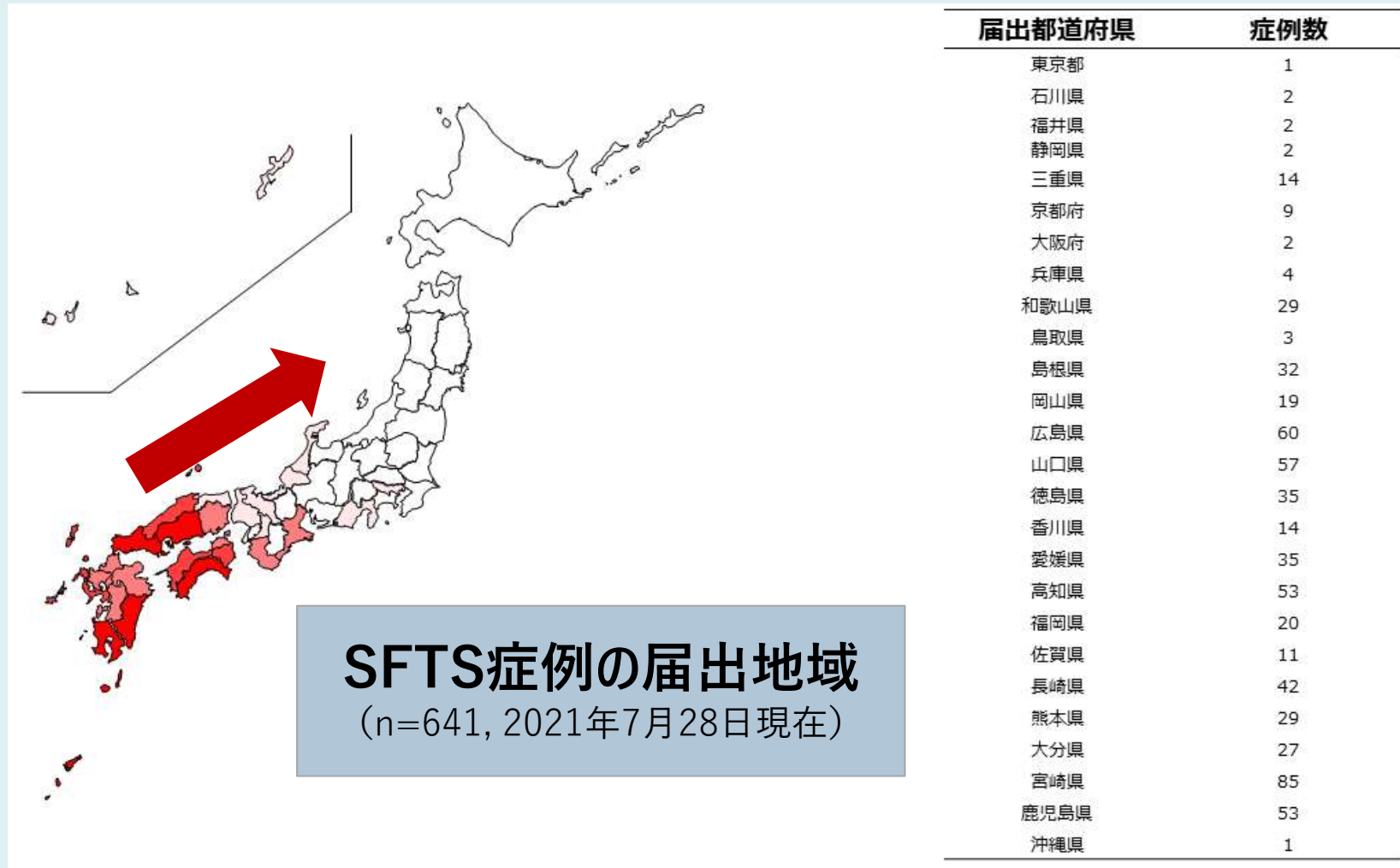
2019年7月28日現在

年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	全体
死亡	14	16	11	8	8	4	5	5	5	76
生存	26	45	49	52	82	73	97	70	70	520
総計	40	61	60	60	90	77	102	75	75	596

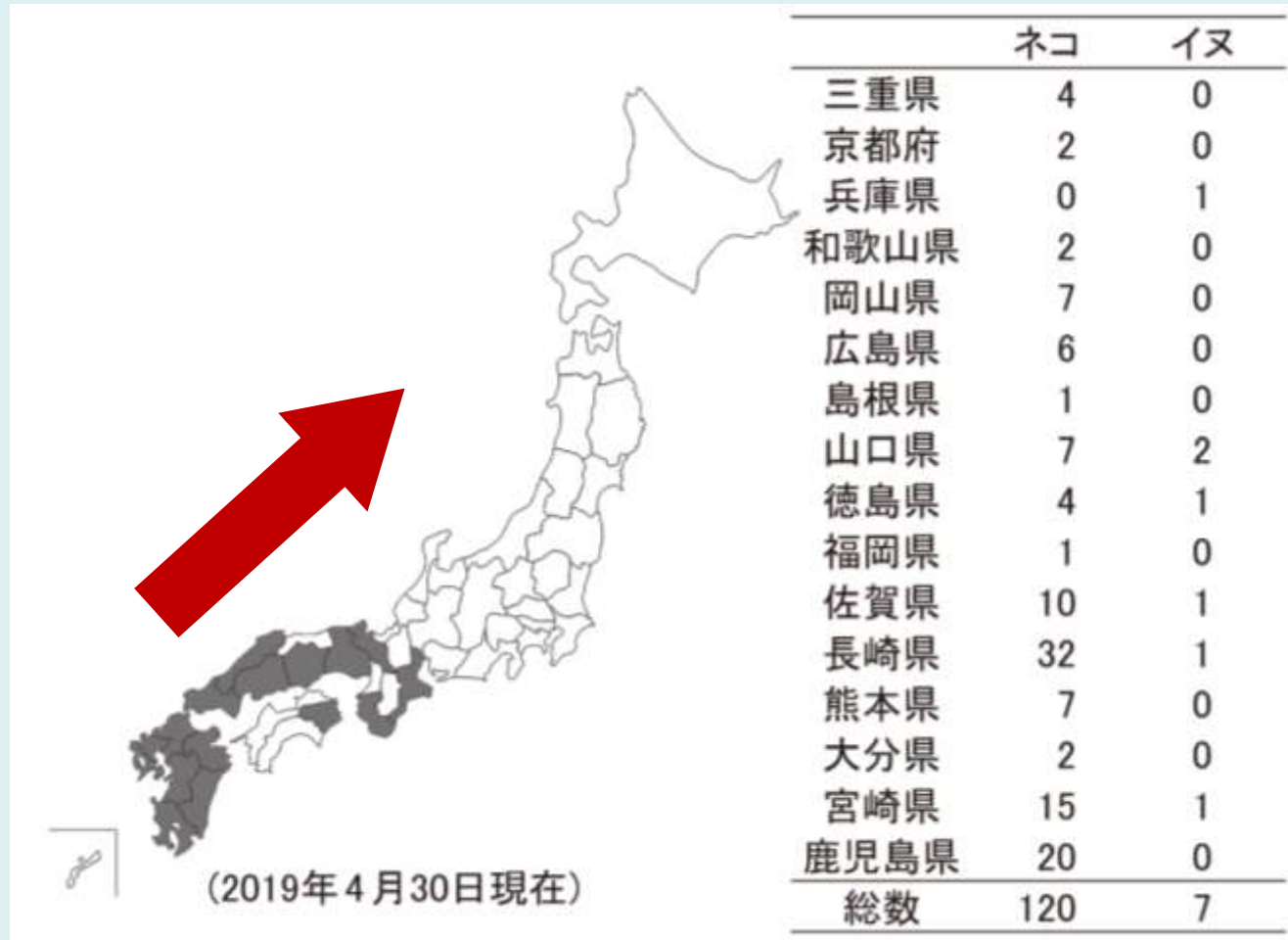
SFTSの致死率は約12%

(新型コロナは約2%)

SFTSは北上している



犬や猫への感染も北上している



SFTS発症ネコに認められた臨床症状

	平均値(範囲)	異常の割合(%)
元気・食欲消失	—	100
発熱(39°C以上)	—	78.1
黄疸	—	94.9
嘔吐	—	61.0
下痢	—	6.8
死亡数	—	60.2
白血球数減少($10^3/\mu\text{L}$)	3.5 (0.058–17.1)	81.0
血小板数減少($10^3/\mu\text{L}$)	47.9 (0–422)	97.5
AST/GOT上昇(U/L)	240.0 (37–1000<)	90.6
CK/CPK上昇(U/L)	2009.7 (82–23755)	100
T-Bil上昇(mg/dL)	4.3 (0.2–12.6)	95.3

獣医師・スタッフへの感染に気を付ける時代になりました

獣医療従事者のSFTS届出症例[†]（n=8, 2021年7月28日現在）

※届出対象となる日時以前の発症例を除く

（SFTSは2013年3月4日に感染症法で全数把握対象疾患である4類感染症に指定された）

発病年	性別	年代（診断時）	感染地域 （推定・確定）
2018	女	40代	九州地方
2018	女	20代	九州地方
2018	男	20代	中国地方
2019	女	50代	九州地方
2020	男	30代	中国地方
2021	男	60代	中国地方
2021	男	60代	中部地方
2021	男	60代	四国地方

[†]症例は動物の診療やケア等の過程で感染したことが推定される獣医療従事者の症例。

DASシステムの概要

DAS dead animal surveillance

ログインはこちらから

メールアドレスを入力してください。

パスワードを入力してください。

認証 | Log In

[パスワードを忘れた方はこちら](#)
[無効化したユーザーの復元はこちら](#)

- メニュー
- TOP
- 新規登録
- SFTS検査
- お問い合わせ

SFTS発症動物自動集計システム：ユーザーの閲覧画面

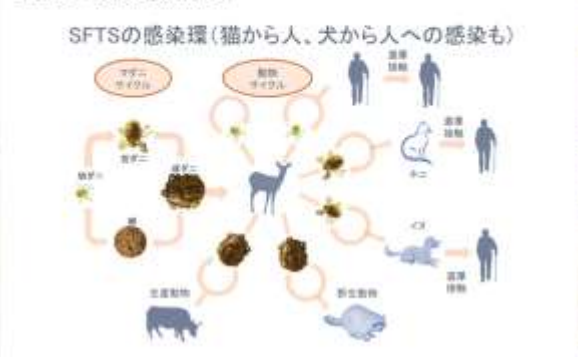
ユーザーの閲覧画面

The screenshot shows the top navigation bar with the 'DAS' logo and 'SFTS検査' (SFTS Test) title. The main content area is titled 'SFTS検査依頼' and contains instructions for users to request a test. A prominent button labeled 'SFTS検査依頼書 | Word File Download' is visible. Below this, the '検査責任者' (Responsible Person) is listed as 前田健 (Ken Maeda) from the National Institute of Infectious Diseases and the Department of Veterinary Science, Yamaguchi University. The '検査実施機関' (Implementing Institution) includes the National Institute of Infectious Diseases, Oita University, Miyazaki University, Nagasaki University, Tokyo University of Agriculture, and Hokkaido University.

SFTS検査依頼書のダウンロード (検査依頼機関)

This screenshot shows the 'SFTS検査依頼' (SFTS Test Request) page from the perspective of the testing institution. It features a large heading 'SFTS検査依頼' and a sub-heading '検査を依頼される方へ' (To those who request a test). The text instructs users to click a button to download the 'SFTS検査依頼書' (SFTS Test Request Form). A button labeled 'SFTS検査依頼書 | Word File Download' is present. The '検査責任者' (Responsible Person) is listed as 前田健 (Ken Maeda) from the National Institute of Infectious Diseases and the Department of Veterinary Science, Yamaguchi University. The '検査実施機関' (Implementing Institution) is listed as 国立感染症研究所・鹿児島大学・宮崎大学・長崎大学・東京農工大学・北海道大学 (National Institute of Infectious Diseases, Oita University, Miyazaki University, Nagasaki University, Tokyo University of Agriculture, and Hokkaido University).

SARS-CoV-2
検査バージョンを
作成中



This block contains two screenshots related to the test request form. The left screenshot shows the 'SFTS検査依頼書' (SFTS Test Request Form) with a 'ダウンロード' (Download) button. The right screenshot shows the 'SFTS検査依頼書' (SFTS Test Request Form) with a 'ダウンロード' (Download) button. The form includes fields for '依頼者' (Requester), '依頼機関' (Requesting Institution), '検査項目' (Test Items), and '検査実施機関' (Implementing Institution).

SFTS発症動物自動集計システム：ユーザーの閲覧画面

SFTS 検査依頼書

下記に記入し郵送願います。(□に✓、必要な部分には詳細記載)

依頼病院名		担当者名	
住所 (連絡先)	〒		
	TEL:	FAX:	
	Email:		

検体の種類	<input type="checkbox"/> 血清	<input type="checkbox"/> スワブ (<input type="checkbox"/> 口腔内 <input type="checkbox"/> 肛門)
検体採取日	年 月 日	

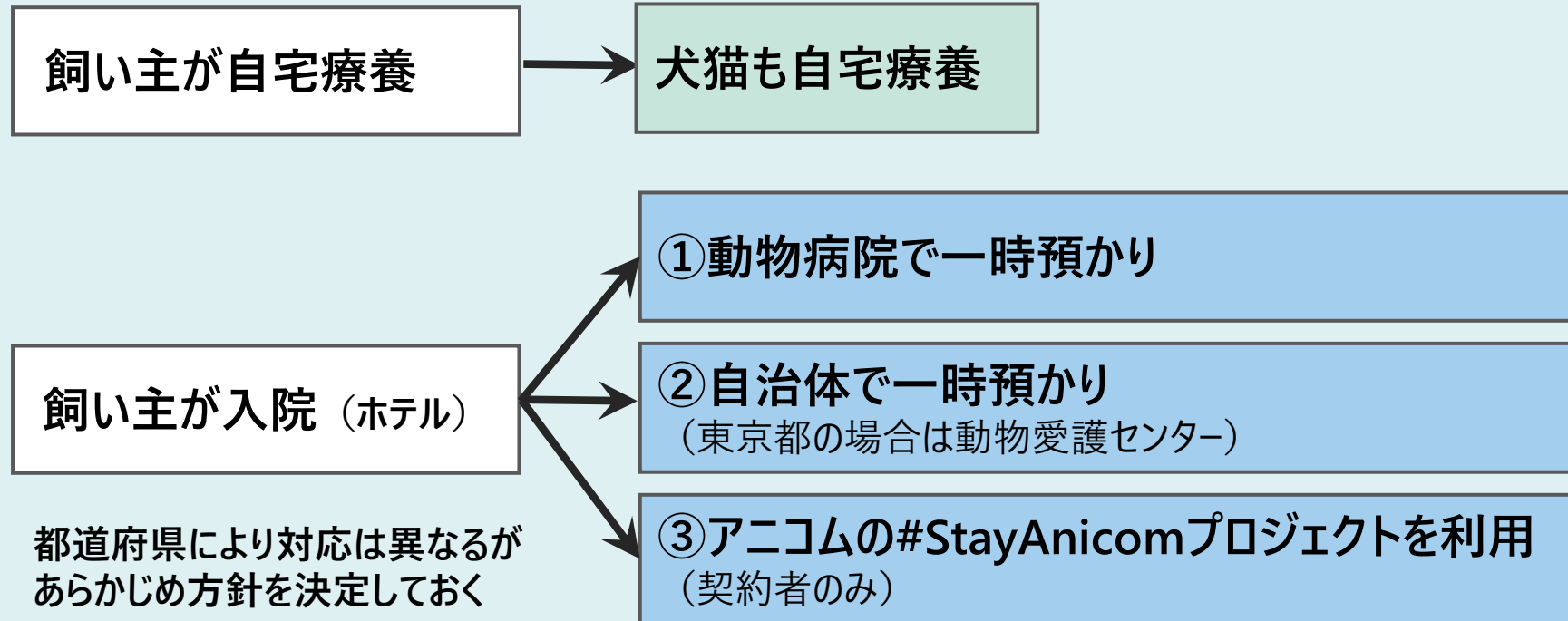
患者(動物)の名前	居住地	都道府県:	市町村:
動物種	<input type="checkbox"/> 犬(種類:) <input type="checkbox"/> 猫(種類:) <input type="checkbox"/> その他		
年齢	歳 カ月齢	体重: kg	性別:
飼育環境	<input type="checkbox"/> 室内のみ <input type="checkbox"/> 室内および屋外 <input type="checkbox"/> 主に屋外		
マダニの寄生	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 過去有(年 月頃?)		
ノミ・マダニ予防薬 投与歴	最近の投与		製品名
	年 月 日		
ワクチン接種歴	接種年月日(最近)		製品名
	年 月 日		
発症年月日	年 月 日		
症状	<input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> 白血球数減少 <input type="checkbox"/> 血小板減少 <input type="checkbox"/> 黄疸 <input type="checkbox"/> 消化器症状 (<input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 嘔吐) <input type="checkbox"/> 元気・食欲低下 <input type="checkbox"/> その他()		

検査データ	発病初期 (月 日)	現在 (月 日)
発熱(°C)		
赤血球(μL)		
白血球(μL)		
血小板(μL)		
ALT(GPT)(IU/L)		
AST(GOT)(IU/L)		

SARS-CoV-2検査は
SFTSに準じて作成中

検査の結果、陽性だったときにどうするのか

SARS-CoV-2の場合



SFTSVの場合

感染症対応できる病院等で入院し治療を行う。

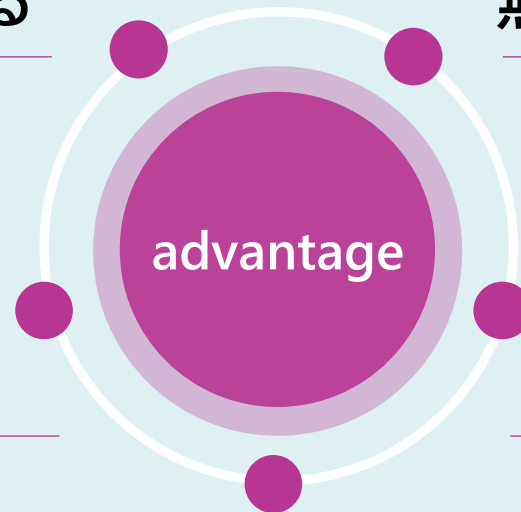
獣医療ネットワークのメリット

ヒトの医療に負けない
獣医療ネットワークを構築できる

AMED班実施期間中
無料検査を実施（2022年4月から有料化予定）

全国の疾患発生状況を把握
動物病院での診療に活用

動物疾患の有益な情報を提供する
ネットワークの構築予定



感染症以外の
あらゆる疾患ネットワーク拡充の可能性

獣医療ネットワークの永続性

東京農工大学農学部感染症
未来疫学研究センター内に
「**獣医療ネットワーク室**」を置き
大学がサポートする

ネットワークを検査企業様に
活用していただくことで
持続的な運営が可能になる

最後に

- ・地方獣医師会、動物病院のネットワークへの参加は任意です
- ・しかし、できるだけ多くのご参加をお待ちしております
- ・開始は2022年1月を予定しております